

番号	課名
G - 1	農業委員会事務局

事務事業名	農地集積・集約化対策事業費補助金(機構集積支援事業)		新規・継続・単年	継続
			ソフト・ハード	ソフト
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	IV-11-19	農林業の経営基盤強化と担い手育成	
	施策の課題(事務事業の実施目的)	既存の農業者の高齢化により、市内では遊休農地が年々増大している。その一方で新規就農者や規模拡大を目指す既存農業者を中心に農地の需要が高まっている。		
	関連施策名(施策コード)	-		

事業内容(経緯)	農業の重要な生産基盤である農地について、その確保及び有効利用を図っていく事を目的に、農地の利用状況調査及び利用意向調査を実施し、耕作放棄地および遊休農地等の調査・確認・指導等に取り組みました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	農地利用状況調査面積	農地の利用状況調査実施面積	ha	2583	2632	2430	2361	2350
②	遊休農地解消指導面積	遊休農地所有者への意向調査実施面積	ha	54	127	434	452	450
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	農地集積1ha当たりの費用(千円)					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	総事業費/農地集積面積				
	1,876	1,743	内容	会計年度任用職員賃金・消耗品費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	県支出金・一般財源			30.5	73.6	76.6	48.6	62.5

事業対象	市内農地を所有する者	今年度の成果	市内全農地の利用状況を調査し、遊休農地の所有者に意向調査を実施して担い手への農地集積を促進しました。これにより担い手や新規就農者が新たに農地を確保することができました。
------	------------	--------	--

成果指標	指標名	担い手への新規集積農地面積			単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	担い手への集積が新たに行われた面積(国報告:農地の権利移動・借賃等調査)				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	農地を効率的に利用する耕作者による権利の取得が促進されており(農地法第1条)、上記面積を成果指標とした。			ha	65.00	26.62	24.50	38.60	30.00

評価	有効性		効率性		評価の理由				
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	農地の利用状況を確認し、所有者の意向確認を行うことで担い手への農地集積に結びついたが、遊休農地は依然として多く存在している。				

事業の問題・課題	効率的な農業のために必要とされる「農地の集約化」が為されるかが今後の課題です。	目標達成に向け、次年度以降の取組	地域における将来の農業の姿を描くため「地域計画」の策定作業が進んでおり、計画策定や計画実施に農業委員会も参画し、担い手への農地集積に結びつけたい。
----------	---	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	強化
施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。			